

ヨハネによる手紙第一 5章6-8節 「御霊の証言」

1A 水と血で来られた方 6

1B 肉体を取られていた方

2B バプテスマと十字架

3B 御霊による証し

2A 三つの証し 7-8

1B 御霊

2B 水と血

3B 一致

本文

ヨハネによる手紙第一 5章を開いてください、私たちの学びは 5章 5節まで来ましたので、その次、6-8節を今晩は見ていきます。「⁶この方は、水と血によって来られた方、イエス・キリストです。水によるだけではなく、水と血によって来られました。御霊はこのことを証しする方です。御霊は真理だからです。⁷三つのものが証しをします。⁸御霊と水と血です。この三つは一致しています。」

私たちは前回、イエスを神の御子と信じる者が、世に打ち勝つ者なのだということについて見ました。世に対してそれほどの力を持っている信仰、その中身をヨハネは証言しています。

使徒ヨハネは、証しをすることをとても大切にしていますね。黙示録にある啓示を受けた時、彼はどのような経路でこの啓示が与えられたかを冒頭で書いています。「1:1-2 イエス・キリストの黙示。神はすぐに起こるべきことをしもべたちに示すため、これをキリストに与えられた。そしてキリストは、御使いを遣わして、これをしもべヨハネに告げられた。2 ヨハネは、神のことばとイエス・キリストの証し、すなわち、自分が見たすべてのことを証した。」イエス・キリストが父なる神の証しをされて、その証しを御使いを通してヨハネに伝え、そして、ヨハネは自分の見たこと、聞いたこと、すべてを証ししています。その書き記したものが、黙示録です。この証しには力があり、殉教してもそれでも悪魔に打ち勝つ力があることを、黙示録 12章 11節に書いてあります。「兄弟たちは、子羊の血と、自分たちの証しのことばのゆえに、竜に打ち勝った。」

証しをすることにどれほどの力があるのか？ 何度も何度も、自分の考えや感じていることを入れることなく、自分の見たこと、聞いたことをそのまま証言するということがどれほどの力を持っているのでしょうか？ 拉致被害者の家族で横田早紀江さんが、ご主人の滋さんと共に、全国を巡って、何十回、いや数百回と、至る所で、恵さんが失踪し、拉致と判明する時までのことを証言したことでしょうか。当時は、単なる陰謀論の一つにしか過ぎなかったのですが、日本と北朝鮮の関係の

中で最重要の問題となり、米国の北朝鮮に対する外交においても重要案件の一つに入っています。何度も何度も、いつも同じことを語っていただけでしょう。けれども、その内容が重大な人権侵害だったゆえに、その証言は国を動かすような大きな力があつたのです。

イエスが神の御子であるという内容は、世に対して、世を支配する悪魔に対してそれに打ち勝つ強大な力を持ちます。そして今晚は、私たちが信仰を持ち、証しをするにあたって、まず御霊ご自身がこの方を証ししておられたことを学びます。

1A 水と血で来られた方 6

^{6a} この方は、水と血によって来られた方、イエス・キリストです。水によるだけではなく、水と血によって来られました。

ヨハネは、非常に単純なことばでイエス・キリストのことを解き明かしています。「水と血によって来られた方」と言っています。これが何を言っているのか？「水」と「血」という、あまりにも身近なものによって語っています。

1B 肉体を取られていた方

「水と血」ということであれば、ヨハネが福音書で、これを見て証しているのであると言っている部分があります。イエス様が十字架の上で死なれた直後の出来事です。「ヨハ 19:34-35 しかし兵士の一人は、イエスの脇腹を槍で突き刺した。すると、すぐに血と水が出て来た。35 これを目撃した者が証している。それは、あなたがたも信じるようになるためである。その証しは真実であり、その人は自分が真実を話していることを知っている。」イエス様の体から出たのが、血だけでなく、水もありました。これを見たことは真実であると、ヨハネはかなり強く強調していますね。これは医学的にも正しくて、肺や腹に水が溜まっていたのが出て来たと言えます。

イエス様は、新しく生まれることについて語られる時に、「ヨハ 3:5-6 まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。6 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」と言われました。水と御霊によって生まれると言われましたが、その次に、「肉によって生まれた者は肉です。」と言われています。ですからこの「水」というのは、体から、母の胎内からということが出来るでしょう。

つまり、ヨハネはここでイエスご自身に肉体がまぎれもなくあつたのだ、ということを証しているのです。ここが、ヨハネが第一の手紙で何度となく述べてきたことでした。自分自身は、このいのちの言葉を、じっと見て、触つたのだとまで言っています。「肉をもってこられたイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。(4:2 参照)」と言いました。それを否定する者は反キリストであると言っています。私たちの罪を洗い清めるのは、この方が肉体を取られ、そして血を流し、水を

流されたからなのだ、ということです。私たちは、この肉の汚れをも、この方の流された血によって洗い清められるのだということです。

2B バプテスマと十字架

そしてヨハネは、「**水によるだけではなく、水と血によって来られました。**」とも言っています。これはどういうことでしょうか？結論から言いますと、ここの「水」が肉体の中にある水を表しているだけでなく、水のバプテスマのことも指していることが分かります。ヨハネのバプテスマによってイエス様が水のバプテスマを受けられました。バプテスマのヨハネが、イエスが神の子であることを証した時に、このように話しています。「ヨハ 1:32 御霊が鳩のように天から降って、この方の上にとどまるのを私は見ました。33 私自身もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを受けるようにと私を遣わした方が、私に言われました。『御霊が、ある人の上に降って、その上にとどまるのをあなたが見たら、その人こそ、聖霊によってバプテスマを受ける者である。』」手紙の本文には、「御霊はこのことを証しする方です。」とありますね。ここが、バプテスマのヨハネが目撃し、証言していることにつながるのです。

水のバプテスマについて、それが新しく生まれること、新生であることは、だれもよりもユダヤ人自身が知っていました。彼らには全身、頭のとっぺんまで水に浸かる水の洗いの儀式がありました。ミクヴェ(מִקְוֶה)と言いますが、深い水槽のようになっています。階段で降りて行きますが、その時に全身裸になります。頭まですべて浸かって出てきますが、これはあたかも、再び母の胎に入るかのようにみなします。そして、階段から上がってくると、新たに生まれた赤ん坊のようにみなし、それで「新しく生まれる」のです。¹実は、ここの箇所、ヨハネが「水」と言っているのは、イエス様の肉体から出てきた水なのか、それともヨハネのバプテスマなのか解釈に意見が分かれています。ですが、どちらかと問う必要はないです。どちらの意味も含まれていることでしょう。水のバプテスマそのものに、母の胎内に入るという肉体の中の水も暗示されているからです。

ヨハネが、当時の偽預言者たち、反キリストと呼んでいる者たちに対抗していることを思い出してください。グノーシス主義というものが、それは霊肉二元論です。霊は純粹で神秘的だが、肉や物質は墮落したものだと考えました。目に見えるものを絶対的な神が造ったものではなく、下級のものが造ったので、罪悪なのだと思いました。肉体を持っていること自体が罪悪だとしたのです。その影響を受けた者たちがキリスト教会にいたのです。そして、イエスが肉体を取って現れたということを否定します。肉体を持ちながら、罪から離れていることを受け入れられなかったのです。これを「仮に現れた」と書いて、「仮現説」と呼びます。

その一人で、ケリントスという人間がいました。彼は、こんな屁理屈を持って来ました。「イエス」は人間である。「キリスト」が神である。「イエスがバプテスマを受けた時に、キリストが降ってきた。

¹ https://www.mikvah.org/article/mikvah_a_fresh_start

そして、十字架に付けられる前にキリストは去って行った。人間イエスのまま、十字架に付けられた。」としたのです。つまり、イエスは十字架に付けられた時には単なる人間だと言っているのです！こうやって偽りを教えている人がいたので、イエスはキリストとして、神の子として血を流されたことを敢えて語っています。

私たちは、この方が肉体を取られたからこそ、神の赦しがこの肉体に与えられます。私たちのこの肉において犯した罪、また肉にある汚れを、その肉体から水が流れ、血が流れたからこそ、清めることができるのです。

3B 御霊による証し

そして、イエス様が水のバプテスマを受けられただけでなく、血をもった体でバプテスマを受けられたことを、御霊が証ししてくださいました。天から鳩のように降りました。その時に天からの声があり、これがご自身の愛する子と言われました(マタ 3:16)。御霊がこうやって証ししておられます。

そしてイエス様は数々の業を聖霊によって行われました。聖霊の働きによって、この方が来るべきメシア、キリストであり、神からの方であることが力強く証しされていたのです。ですから、その働きを拒む時に、イエスご自身の真実な証しを受け入れないということであり、イエスを信じないということであり、それが赦されない罪なのだと教えます。「マタ 12:31 ですから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒瀆も赦していただけますが、御霊に対する冒瀆は赦されません。32 また、人の子に逆らうことばを口にする者でも赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、この世でも次に来る世でも赦されません。」

御霊の働きはとても重要です。イエス様は、ご自分が去っても、その後でもうひとりの助け主を遣わされることを前もって語られました。だから去ることはかえって、益になるのだとまで言われました。なぜなら、この方は真実を証しされ、私たちと共に住み、私たちの内に住んでくださるからです。もし、イエス様が肉体において地上におられる時は、共にいる弟子たちには助けていましたが、聖霊が降られると、信じる者すべてにおられるようになります。イエス様が天に昇られてから二千年近く経ちますが、今でも聖霊によって主が共におられます。

そして「御霊は真理だからです」とあります。真実を証ししてくださるのです。イエス様は福音書において、何度となく御霊がご自分について証しして、真理を教えるのだと言われました。「15:26 わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち、父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証ししてくださいます。」偽りではなく、真理を証しされます。イエス・キリストが真理であり、水と血で来られた方として私たちに忠実に教えてくださいます。「ヨハ 14:17 この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおら

れるようになるのです。」「16:13 しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導いてくださいます。御霊は自分から語るのではなく、聞いたことをすべて語り、これから起こることをあなたがたに伝えてくださいます。」

2A 三つの証し 7-8

⁷ 三つのもが証しをします。⁸ 御霊と水と血です。この三つは一致しています。

これは、証言の原則ですね。「申 19:15 いかなる咎でも、いかなる罪でも、すべて人が犯した罪過は、一人の証人によって立証されてはならない。二人の証人の証言、または三人の証人の証言によって、そのことは立証されなければならない。」この律法を土台にして、聖書の至るところに、二人以上の証人を立てる表現が出てきます。例えば、イザヤ書の冒頭が、「天よ、聞け、地も耳を傾けよ。(1:2)」こういう感じで、証言するものを二つ以上持つてくるのです。ここでヨハネは、三つの証言によって、イエス様が神の子であることを証しています。

1B 御霊

一つが御霊です。第一の手紙では、すでに何か所かで御霊による証言を教えています。「2:20 あなたがたには聖なる方からの注ぎの油があるので、みな真理を知っています。」御霊のことを、聖なる方からの注ぎの油と言っています。「4:13 神が私たちに御霊を与えてくださったことによって、私たちが神のうちにとどまり、神も私たちのうちにとどまっておられることがわかります。」

御霊がいかに、私たちのキリストとの歩みで必要か知れません。この方がおられるからこそ、神ご自身を知ることができます。「I コリ 2:10 それを、神は私たちに御霊によって啓示してくださしました。御霊はすべてのことを、神の深みさえも探られるからです。11 人間のことは、その人のうちにある人間の霊のほかには、いったいだれが知っているでしょう。同じように、神のことは、神の霊のほかにはだれも知りません。12 しかし私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神からの霊を受けました。それで私たちは、神が私たちに恵みとして与えてくださったものを知るので。」私たちは、自分たちの知力で知り得ると考えてしまいがちです、いいえ、キリストについての真理は、御霊によって初めて悟ることができます。

2B 水と血

そしてもう一つが水で、さらに血です。先に、水と血は、キリストの肉体を示しているし、またバプテスマと十字架を示していると話しました。ここで大事なことは、私たちがイエス・キリストにある真理を、どのように受け継いでいるか？ということにあります。イエスの名によるバプテスマがあります。そして、いわゆる聖餐式があります。洗礼式と聖餐式、この二つは単なる儀式ではありません。そこには、キリストが肉体を取られたということを我々信者が後追いし、証しを立てているのです。そして、そこに聖霊が働いてくださるのです。私たちプロテスタントの教会の信者は、神のことばを

信じるということには強調点を置いています。けれども、水のバプテスマを受けることによって、初めて知ることのできるキリストの奥義があります。同じように聖餐式にも主がご臨在されます。

3B 一致

そして、この三つが一致しているとヨハネは言います。バプテスマから十字架まで、キリストが肉体を取られているというところで一致しています。そして御霊は、必ず肉体を取られたキリストを証しているということで一致しているのです。もし、聖霊によるということ、そうではないことを示唆する動きであれば、それは聖霊によるものではない、神によるものではないのです。「4:3 イエスを告白しない霊はみな、神からのものではありません。それは反キリストの霊です。」一致している、ということが大事ですね。

霊肉二元論は、私たちに巧妙に入ってきます。イエスを信じ、この肉体において行っていることに注目させない動きがある時に要注意です。知識を振りかざし、行いが伴っていないこと。言っていることは格好いいのに、自分の肉体でしていることはまるで反対ということがあります。あるいは逆に、神の命令にはないのに余計に禁じたりすること。例えば、今であれば、コロナのワクチン接種について、獣の印を受けることだとして人々に受けさせないとか、受ける受けないの踏み絵にすることとかもあるでしょう。